

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0895500015		
法人名	有限会社さくらの里		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地	つくばみらい市福岡2997-1 (電話) 0297-52-8800		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人、非常勤 2人、常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	1	要介護2	5
要介護3	8	要介護4	1
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 86.5 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑波学園病院	つくば白亜クリニック	大木歯科医院
---------	--------	------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地から少し離れた田園に位置し、すぐ近くに川が流れており、日々の散歩や花見、花火見物など季節を肌で感じることができる環境にある。
ホーム内の畑で野菜や花を作っており、利用者は種まきをしたり家族と一緒に収穫するなど、利用者と家族と一緒に活動する機会を設け、家族とのつながりを大切にしている。
経営者は地元でもあり、地域とのかかわりや地域からの理解が得られるよう、地域の人々との交流に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の掲示や地域へのホームの周知、利用者のハード面での安全の配慮や排泄パターン把握、職員間での情報の共有など改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者のみで行っていたが前回の外部評価の結果を踏まえ、全職員で話し合い日々の業務の改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議開催に向けて積極的に準備している。 会議では、ホームの活動状況や課題などを話し合いサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所内に意見箱を設置し、家族等がいつでも意見を伝えることができるよう配慮するとともに、苦情や意見があった場合は速やかに対応できるようマニュアルを作成し、会議を開くなど解決に努めている。 重要事項説明書に公的苦情相談窓口を明記している。 広報誌の発行はしていないが、家族等へは定期的に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の方々にホームの理解を呼びかけている。 小学校の運動会やお祭などの行事に参加したり、ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけたりして地域の人々と交流している。 また、利用者の知人が訪問するなど住み慣れた土地ならではの個人的な交流もある。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく穏やかな生活ができるよう、「尊厳ある生活の精神を志す」という、独自の理念を念頭におきサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所やリビングに掲示するとともに、毎日のカンファレンスにおいて理念の共有と実践ができるよう確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域にホームの理解を呼びかけたり小学校の運動会やお祭などの行事に参加している。 また、ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけるとともに、利用者の知人が訪問するなど地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者のみで行ったが前回の外部評価の結果を踏まえ、全職員で話し合い日々の業務の改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催に向けて積極的に準備をしている。	○	ホームの活動状況や課題などを話し合い、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護のワーカーが訪問している。市役所にパンフレットを置き、空き状況の報告をしているが、十分な連携を図るまでには至っていない。	○	市や地域のさらなる連携や協力が得られるよう、運営推進会議を利用して協力を呼びかけるなど、市とともにサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌など書面での報告はしていないが、面会時にはできるだけ日常の様子を報告している。 また、体調などの変化や緊急時は、速やかに家族等に連絡し相談している。 個人の金銭管理は、月に1度文書により報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し、家族等がいつでも意見を伝えることができるよう配慮するとともに、苦情や意見があった場合は速やかに対応できるようマニュアルを作成し、会議を開くなど解決に努めている。 重要事項説明書に公的苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があっても利用者との関係を築けるよう、ユニット間で交流を図っている。 利用者や職員が自由にユニット間を行き来できるよう配慮している。 また、採用時には利用者や家族に紹介している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にマニュアルを配布し、理念・介護方法・認知症の理解・緊急時の対応など研修をしている。 また、業務に慣れるまで個別の指導をし、不安なく仕事ができるよう育成している。 外部研修への参加を促し、研修内容を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設組合に加入しネットワークを作ったり、他のグループホームと相互に見学をして交流する機会を設けている。 また、利用の申し込みに対し他のグループホームを紹介するなど、協力体制を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に実態調査をし、利用者が不安なく生活できるよう利用者や家族と相談している。 できるだけ個別の対応をするよう全職員に周知している。 体験利用は希望があれば受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とはできるだけ会話し、お互い理解しあえるよう努力している。 利用者の得意なことを把握し、それを教えてもらえる環境づくりをしている。 利用者とともに笑ったり、一緒に家事を行ったりしてともに生活を支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の実態調査により、暮らしのなかで利用者や家族の意向を積極的に取り入れた支援に努めている。 困難な場合は、家族に相談しながら承諾を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から得た情報をもとに、職員で意見やアイデアを話し合い、それを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標、短期目標の期間に応じ介護計画を見直している。 また、利用者に変化が生じた場合は利用者や家族、職員間で話し合い、現状にあった新たな介護計画を作成している。	○	あまり変化のない利用者については、長期間介護計画の見直しをしていないので、目標の達成度や新たな課題を職員で話し合い見直しすることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の状況や要望にそって対応できる体制になっており、通院や床屋への付き添いなどの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を優先し、意向にそったかかりつけ医の選定を行なっている。 提携医からは定期的な報告や指示をもらったり、かかりつけ医との関係も築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時にホームとしてできることを理解してもらえよう説明し、利用者や家族の要望を確認しながら、医師や看護師の助言をもとに、最大限の支援ができるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシー保護を心がけ、利用者の尊厳ある生活を支援している。 排泄や入浴などはもちろんのこと、全職員が言葉かけや対応に配慮するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、利用するまでの生活リズムを確認し、利用者のペースにそった生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に料理の本を見たりして好みを把握し、献立に反映している。 また、1日分の食材の買い物をしたり、調理や準備、後片付けなど利用者と職員が一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用前の生活パターンを踏まえ、できるだけ希望にそった入浴ができるよう配慮している。 菖蒲湯や柚子湯など季節が感じられ、入浴を楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族からの希望を聞きながら、個々の力を発揮できるよう支援している。 また、歌やゲームなどの趣味活動、散歩や中庭での食事、花見や花火見物、ボランティアの受け入れなど、利用者の個性を尊重した楽しみや気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物や散歩、畑仕事や外出行事など、利用者の体調や天候を考慮して日常的に外出の機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず常に見守ることとし、外出したい時はスタッフが付き添うようにしている。 事故防止のため玄関にチャイムを設置している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、マニュアルを作成し定期的な非難訓練を行ったり、火災報知器の設置や、建物内禁煙を徹底している。 また、災害時に備え十分な食料や水などを確保している。	○	運営推進会議で施設内の見取り図を周知したり、避難訓練に地域の人々に参加してもらうなど、協力を得られる体制づくりを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養バランスや水分量については、疾病や体重チェック、医師からの指示を受け状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じられるよう、カレンダーを掲示したり花を飾っている。 また、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮され、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れたものを持ってきてもらえるよう、家族にお願いしている。 居室内は自由に使うことで、それぞれ使い慣れた物や好みのものに囲まれ居心地良く過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。